

# 裾野市バスのデータ分析による再編プロセスの構築

トヨタ自動車（株）未来創生センター 和田 敦・佐多 宏太・北濱 謙一

**【背景】** 地域旅客運送サービス継続事業を活用する状況の地方路線において、公共交通の維持のため、限られた予算内で利便性も考慮した「利用者が納得」するバス路線と運用が求められている。

**【目的】** 利用者の納得感を得るためのデータ分析・活用方法を提案する。

**【実施事項】** 静岡県裾野市内の「岩波循環線の廃線」および「裾野市内循環線の再編」を対象に、「乗り込み調査のデータ・乗降データ」を活用し、分析・評価。

## 岩波循環線の廃線

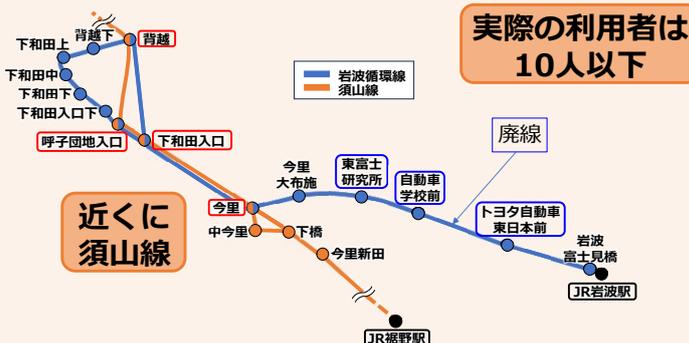


図1：岩波循環線と須山線

## 裾野市内循環線の再編



図2：循環線と再編ルート案（一例）

買物施設・公共施設をつなぎ、利用者要望を反映した往復ルート案

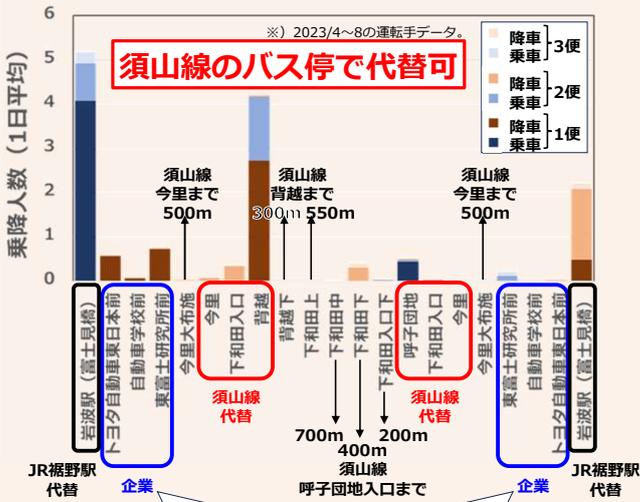


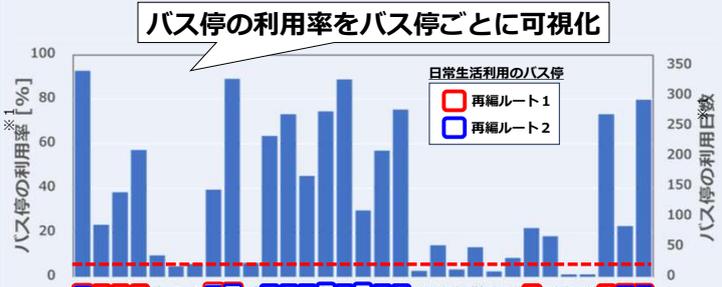
図3：岩波循環線乗降データ

【特徴と改善案】

【データ分析】

【活用方法】

【考察】



日常生活利用のバス停を特定

図4：日常生活利用のバス停（一例）



住民説明会でデータを提示

図5：廃線プロセス



対話集会でデータを提示して会話

図6：再編プロセス

住民説明会で否定的な意見なく廃線に至る  
「データに基づいた代替案の提示」により、  
利用者の納得感に寄与したと考えられる。

試験運行で利便性に満足との声を得た  
「データに基づくルート案を提示」し、対話集会で会話  
したことが利用者の納得感に寄与したと考えられる。

**【まとめ】** 日常生活の利用者を中心とした乗降データ分析方法を提案。  
裾野市の岩波循環線の廃止プロセスおよび裾野市内循環線の再編プロセスで評価し、有効性を確認。